

1 題材名 がんの予防について

授業日時：令和5年11月21日（火）13：25～14：15
 授業者：大坪 和将

2 本時のねらい

がん予防推進のためのより良い方法（内容）について考えることを通して、がん予防の見方・考え方を深めることができる。（思考・判断・表現）

3 本時の展開

進	○学習内容 「・」予想される生徒の思考	◇教師の指導 ※留意事項
導入	1 講師紹介・課題づくり ○講師紹介、講師の話 4分 ・「自分達の啓発内容はこれで良いのかな」 ○学習目標の確認 2分 ・「医療現場ならではの話をたくさん吸収したいな」 ・「現場の話参考に、さらに説得力のある啓発ができるようになりたい」 自分達のがん予防啓発の仕方や内容について、医療現場の立場で助言をいただき、考えを深めよう。	※現場だからこそ分かることや医師としての経験を踏まえてアドバイスして下さることを伝え、発表の意欲を高める。 ◇「がんを予防するために自分はどんな行動を心掛けていけばいいのだろうか」と、相手に考えてもらえるような内容を目指すことを再確認する。
展開	2 発表準備 ○発表に向けての確認（機材準備） 4分 ・「〇〇さんのお母さんの生活習慣ではがんのリスクを高めてしまうから、まずはその習慣の危険性について伝えよう」 ・「全での家庭に当てはまる内容にしたけど、自分が話をする時にはもう少し〇〇について話をしたいな」 ・「現場では医療ドラマのようなやり取りがされているのかな」 3 発表 ○各グループ発表 25分 ・「自分が本気でがんについて伝えることで、大切な家族の健康に繋がるんだ」 ・「家族の生活の傾向から生活習慣を見直すような提案は自分達も真似したい」 3 講師の話 ○講師の先生から助言（10分） ・「がんを患った患者さんにはそんな苦しみがあったんだ。だからこそ、〇〇には、がんになってほしくない」 ・（大人の気持ちや事情を知ったことで）「自分たちの発表のあの表現の仕方を変えた方が伝わりやすいな」	◇『伝える相手』『内容』『質問』等はワークシートを使って確認できるようにする。 ※声の大小や立ち位置等のプレゼン方法ではなく、“内容”に視点をもたせたい。 ◇発表を聴く際は、“啓発される側”の立場にたって、相手の気持ちを想像しながら聴くように促す。 ◇発表内容について気付いたことを端的にメモするように伝える。 ※その際、プレゼンの仕方に目が向かないように声をかける。啓発に関する内容に目を向けさせたい。 ※家族や親戚で過去にがんを患ったことのある生徒が教室にいることが苦しくなる可能性がある。 ⇒別室待機（相談員、学年職員） ◇ワークシートにメモをとりながら話を聞き、質問等があればその都度聞くように促す。
まとめ	6 振り返り（学びをつなげる） ○本時を通して改めてどんな発表内容がイメージできたか振り返る。 5分 ・「がんについての知識を伝えるだけでなく、生活習慣と結び付けて考えることが大切だと分かった」 ・「がん患者の思いを伝えることも予防の意欲を高めることに繋がるんだ」 ・「まずは、自分が当事者意識をもつことが大切だ」 ・「絶対になんかがん予防の意識を高めるんだ」	◇生徒自身もがん予防の意欲を高められるように、がんに関する理解や、単元を通して意識の変化はあったのか振り返れるようにする。 【評価規準】思考・判断・表現 意見交流や助言を受けて、がん予防に対する見方・考え方が深まった旨の記述をすることができる。